

～ 「母校」という心のお守り ～

学校の校門や外壁に設置されている御影石の学校銘板（校銘板）をご存知でしょうか。風雨や経年変化に強く、重厚感のあるその学校銘板が、本校の歴史を静かに見守ってきました。この度の外構工事で、正門が取り壊され、新しい正門へと生まれ変わりました。その際、工事関係者の方々が、傷をつけることなく、大切に取出し、校長室まで運んでくださいました。

その学校銘板がこれです。



本校、西神吉小学校にもかつて木造校舎の時代がありました。昭和29年の創立50周年から昭和36年にかけて2階建て木造校舎が竣工され、運動場も拡張されました。昭和41年には、現在の運動場体育倉庫のあたりに最初のプールが完成しました。

その後、平成4年（1992年）に現在の校舎へと生まれ変わり、平成7年（1995年）にはプールも現在の位置へと移設されました。今年で創立123周年を迎える長い歴史の中で、校舎や施設は時代とともに姿を変えてきました。

そして現在、南側の外構工事が進み、長年親しまれたプールもその役目を終えようとしています。けれど、卒業生のみなさんの心の中には、それぞれの時代の西神吉小学校の姿が今も鮮やかに残っているはずです。どれだけ校舎や風景が変わっても、今通っている子どもたちもまた、何年経っても「西神吉小学校」をずっと心に抱き続けていくことでしょう。それこそが「母校」という存在なのだと感じます。

本校に勤めて11年目となりました。私はきっと子どもたち以上に校歌を歌ってきたかもしれません。校歌を口ずさむと、メロディーとともに西神吉っ子たちと過ごした様々な場面が鮮やかによみがえってきます。私にとっても、西神吉小学校はもう一つの大切な「母校」です。



西神吉小学校 校歌

三、 幾年ここに 学びきて 忘れぬ想い 重ねつつ いざや励まん 美しき 清き誠を 保つべく ※繰り返し	二、 鎮守の森の 色深く 宮居をめぐる 稲の波 いざや遊ばん たくましき 力の人となるべしと ※繰り返し	一、 大池の底の 水ぬるく 印南の里は 花ざかり いざや学ばん 新しき 文化の潮に おくれじと ※心いさみて 集いよる 我が学舎は 西神吉	作詞 勝山 正躬 作曲 石田 純一
--	---	--	------------------------------

子どもたちが当たり前のように過ごしている学校生活ですが、小学校で過ごす時間には限りがあります。入学から卒業までの6年間、登校日数はおよそ1200日。子どもたちには、その一日一日、一瞬一瞬を大切にしたいと願っています。今、目の前にあるやるべきことに、全力で取り組む一日を積み重ねていってほしいと思います。